

## むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 宮下 宗一郎 殿

隊員氏名 山田 菜生子

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2022年6月分】

### 1. 実施した活動の概要・状況

6月は、カマイルカ死骸の除肉のため体験館屋外にて作業することが多く、まりん・びーち周辺を散歩していた多くの地域内外の方々と交流することが出来た。また、先月入館者を増やす目的でビーチ近くの看板に設置したが、利用者の中にはポスターを見て体験館の存在を認識した方もおり、ポスターの有用性を確認した。

#### 〈主な活動〉

#### ○6月1日（水）カマイルカ漂着死体の解剖

5月28日の体験館主催イベント「親子でイルカウォッチング」を実施した際に、脇野沢フェリー乗り場より200メートル離れた海岸にて死んで漂着しているカマイルカ1頭を発見した。死因や胃の内容物を確認し、さらに漂着したカマイルカの骨格標本作製することは、川内・脇野沢地区周辺の海について理解することに役立ち、今後の様々な活動に生かせるような機会になると考え解剖を行った。結果、死因を解明することは叶わなかったが、参加者や見学者の協力により解剖、そして各部位の計測は無事終了した。しかし、骨格標本化に向けて、多くの作業工程が残されているため、日常業務の合間に進めていきたい。



背ビレの長さを図る様子



煮沸した頭蓋骨の除肉を行う様子

## ○6月4日（土）、11日（土）親子でイルカウォッチング

下北地域在住の親子を対象とした全3回のイルカウォッチングプログラム。青森大学で忍者学や青森学の講義を担当し、陸奥湾のカマイルカ調査を長年にわたり行ってきた清川繁人教授にカマイルカについての講義をしていただき、その後「夢の平成号」からカマイルカを観察する。5月に迎えた初回では、天候の影響により、「夢の平成号」が欠航したが、今回は第2回、第3回、どちらも出航することが出来た。

夢の平成号の上で、参加者は清川教授によるカマイルカについての説明に加え、小池隊員による地質についての説明を聞きながらイルカを観察し、アンケートには「イルカがかわいかった」「鯛島の話が面白かった」などの声が寄せられた。一方で船酔いする子どもが多く見られたため、来年度以降は今年度の経験を踏まえ、スムーズに対応していきたい。



4日、ジャンプするカマイルカを観察する様子



11日、夢の平成号と記念撮影

## ○6月12日（日）、25日（土）、26日（日）RACリーダー講座の受講

今後の川遊び等のアクティビティに向けて、3日間の川に学ぶ体験活動協議会によるRACリーダー講座を受講した。12日は座学で、川周辺の危険箇所や、川遊び中の監督方法、リスクマネジメントなどについて学び、25、26日は、要救助者を見つけた場合のスローロープの投げ方や、遊歩道の道中に生える危険な植物、リバーカヤックアクティビティ中のリスクマネジメントなどを実践しながら学んだ。

講座の中では、救助用具が十分にそろっていない場合の救助の仕方や、救助に当たる際に意識すべきこと、そして安全に配慮しながらもアクティビティを参加者に楽しんでもらう方法など、生きた学びを身につけることが出来たため、体験館の今後のイベントにもそれらを活かしていきたい。



講師による葉を使った遊び指導の様子



川での正装（救命胴衣、靴、ヘルメット着用）

## ○6月28日地域おこし協力隊初任者研修会

青森県弘前市で行われた青森県地域おこし協力隊初任者研修会に参加した。

協力隊制度の基本的な仕組みや予算の使い方、将来のビジョンの描き方、先輩協力隊員による体験談を聞き、その後青森県各地の協力隊員、および職員と交流を行った。むつ市は地理的な理由により、他の市町村の協力隊員と交流を図ることが難しいこともあり、市外の協力隊の取り組みや想いを知る貴重な機会となった。と同時に自分自身の協力隊員としての在り方を客観的に見つめなおす機会にもなり、課題点を探るきっかけにもなった。

今回の研修会で受けた刺激やアイデアを活かして、むつ市の地域おこしに取り組みたい。

## 2. 翌月の活動予定

7月は下記の活動に加え、引き続きカマイルカの骨格標本作成作業を行う。

7月3日 令和4年度若者育成事業ガイダンス

7月9、10日 JSCA シーカヤック検定会

7月30日 国際交流イベント